

## 放射線科後期研修カリキュラム

### 【目的と特徴】

画像診断学、放射線腫瘍学の知識を身につけ、読影依頼、放射線治療依頼に対応出来る様に、実践的なトレーニングを行う。また院内における診療科としての放射線科の役割を理解する。

### 【行動目標】

- (1) CT 解剖を理解し、読影、報告書作成の技術を学ぶ。
- (2) MRI 解剖を理解し、読影、報告書作成の技術を学ぶ。
- (3) 核医学診断の総論、各論を学び、放射線医薬品の知識を得て、投与方法を実践する。  
読影、報告書作成の技術を学ぶ。
- (4) 放射線治療の総論、各論を学び、患者とのやり取りの経験、治療計画の実践、効果判定や治療終了後の経過観察の方法等を、放射線治療専門医、放射線技師の指導の元で学ぶ。
- (5) IVR に関する知識、カテーテルやワイヤー、コイル等の知識、適応の判断能力、実際の手技を学ぶ。
- (6) 造影剤の副作用に関する知識や対処の方法を学ぶ。
- (7) 放射線専門医として必要とされる要件を満たす。

### 【方略】

- (1) 日常の CT、MRI、RI の画像診断を実際に行い、報告書を作成出来る能力を身につける。
- (2) 放射線治療を指導医の元で学ぶ。入院患者では主治医と意見交換を行う。
- (3) IVR 症例があれば、補佐として技術を学ぶ。
- (4) 放射線科もしくは健康管理センターで上部消化管撮影、超音波検査の手技を学ぶ。
- (5) 各診療科の症例検討会や院内 CPC に参加する。
- (6) 研究会や学会に参加する。

### 【週間スケジュール】

基本的にまず画像診断を学ぶ。研修に適した放射線治療の症例があれば、担当の放射線治療専門医と共に、治療学を学ぶ。IVRの依頼があれば、補助として検査に参加する。

### 【評価方法】

画像診断、放射線治療ともに、毎月、読影数や治療患者の内容を上級医に報告し、自己評価をおこなう。指導医の評価は3ヶ月ごとに行う。

**【研修終了後】**

希望があれば、名古屋大学放射線科大学院に入学する。

その他は本人の希望を尊重する。

**【取得可能な資格】**

日本医学放射線学会専門医

マンモグラフィー読影認定医